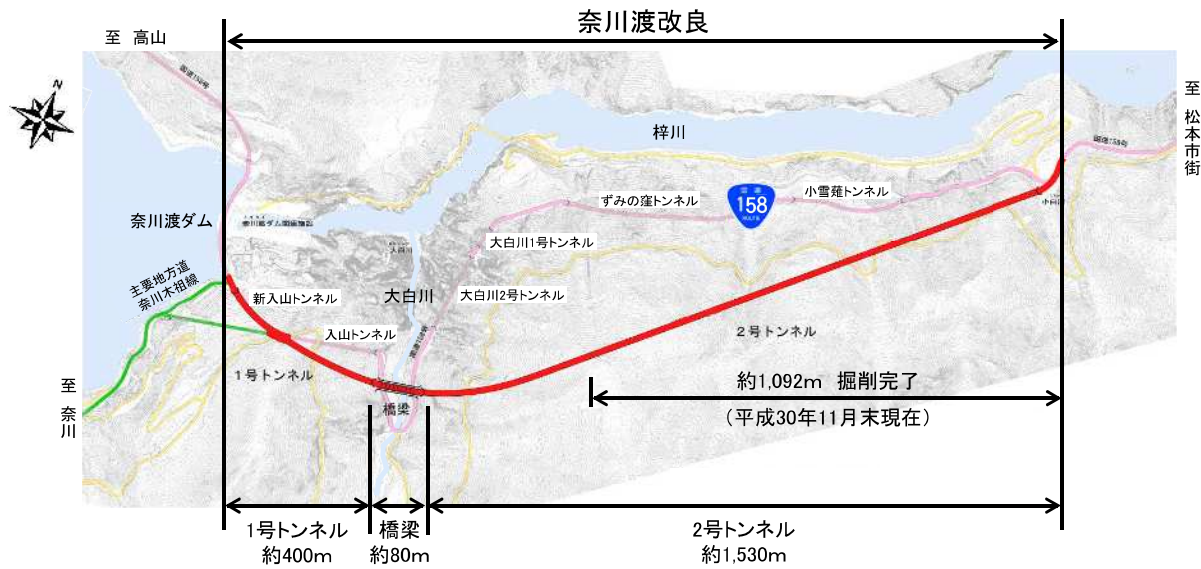


(3) 国道158号改良の進捗状況

○ 奈川渡改良の工事が順調に進捗

奈川渡改良は防災や線形改良を目的として計画された延長2.2kmの改良事業で、長野県の権限代行事業として国が整備を進めており、現在、2号トンネルと大白川を渡河する橋梁の工事が行われています。2号トンネルは平成28年12月から掘削が開始され、平成30年11月末現在で約1,092mまで掘削が完了するなど順調に工事が進んでいます。

大白川を渡河する橋梁は、橋台工事に伴う付替え道路や橋脚工事に必要な仮橋の整備を行っており、今後は橋脚本体等の工事に着手する予定となっています。



○ 狸平地区の改良が事業化

狸平地区周辺の国道158号は、梓川と切り立った崖に挟まれた地形のため、落石やカーブが連続することで交通事故等による交通障害が起りやすい箇所です。

長野県は、奈川渡改良に続く改良箇所として、安曇地区三本松トンネルから稲核ダム手前までの約1.5km区間についてトンネルと橋梁による改良事業に着手し、現在、調査・測量・設計が進められています。



【問い合わせ先】

中部縦貫自動車道(松本～中ノ湯間道路)建設・国道158号整備促進期成同盟会事務局
松本市建設部建設総務課 電話 0263-34-3241/FAX 0263-33-2939

「中部縦貫自動車道・国道158号改良」通信

創刊号

平成30年12月発行

<発行団体>

- ◆中部縦貫自動車道(松本～中ノ湯間道路)建設・国道158号整備促進期成同盟会
- ◆中部縦貫自動車道の早期建設を進める会
- ◆国道158号改良を促進する沿線住民の会

「中部縦貫自動車道(松本～中ノ湯間道路)建設・国道158号整備促進期成同盟会」、「中部縦貫自動車道の早期建設を進める会」及び「国道158号改良を促進する沿線住民の会」は、中部縦貫自動車道の整備及び国道158号改良を推進する活動を連携して行っています。

今後、「中部縦貫自動車道・国道158号改良 通信」により事業の必要性や進捗状況などを皆さまにお知らせしてまいります。

<発行団体の構成>

- ◆中部縦貫自動車道(松本～中ノ湯間道路)建設・国道158号整備促進期成同盟会 会長：松本市長
[松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村及び各市村議会]
- ◆中部縦貫自動車道の早期建設を進める会 会長：松本商工会議所会頭
[松本商工会議所のほか関係地域の商工団体、観光協会、旅館組合等71団体]
- ◆国道158号改良を促進する沿線住民の会 会長：安曇地区町会連合会長
[安曇、奈川、波田、梓川の4地区76町会、法人等40団体]

(1) 「中部縦貫自動車道」・「国道158号」の早期整備の必要性

○ 中部縦貫自動車道

中部縦貫自動車道は、国道158号の自動車専用道路として国が整備を進めており、長野道を経由して、中央道と北陸、日本海を結び、東京から日本海までの人・物の流れを活性化させるとともに、沿線にある「国宝」松本城、「特別名勝・特別天然記念物」上高地、「世界遺産」白川郷など、日本を代表する観光地を相互に連携し、観光の活性化による経済の好循環が期待できる路線です。

また、南海トラフ巨大地震等の災害時における東名高速、中央道等の代替路としての機能も有しており、地域としても安全・安心をつなぐ新たな「命の道」として大きな期待を寄せています。

○ 国道158号改良

国道158号は長野県から福井県までを結ぶ物流の基盤として、また、周辺に点在する上高地を始めとする国内有数の観光地へのアクセス道路として重要な役割を担っています。

一方で、地域住民にとっては、通勤通学など、日常生活にかかせない生活道路でもあります。

しかし、急峻な山岳地帯を通過する道路のため、道路が狭く、急カーブや大型車同士のすれ違いが困難なトンネルが数多くあり、迂回路も無いことから観光シーズンは慢性的な渋滞や交通事故も多発しています。

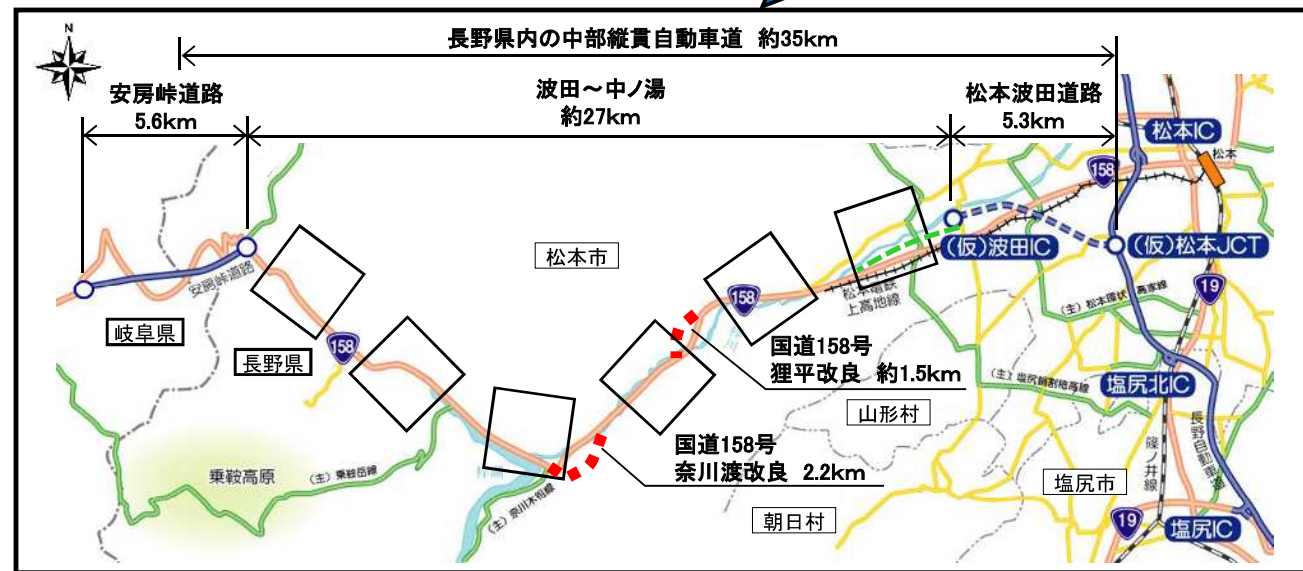
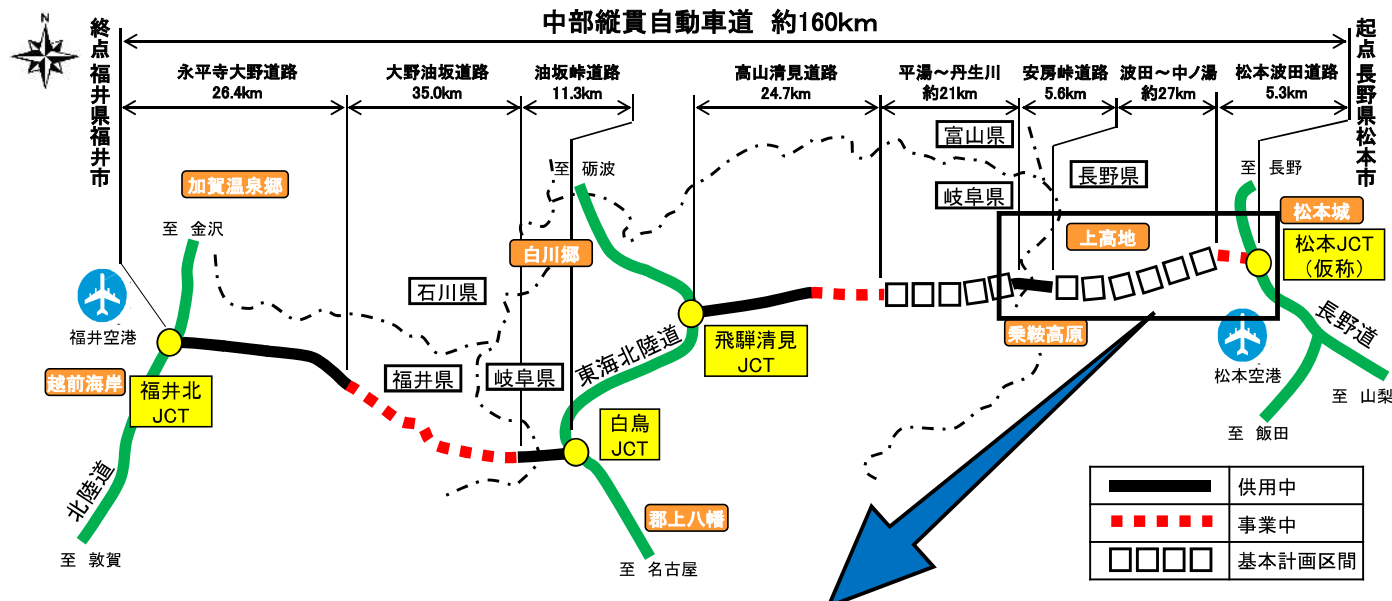
また、落石や雪崩などの災害も発生しており、通勤通学や緊急車両の通行に重大な支障を及ぼしています。

国道158号の改良は地域住民にとって長年の悲願であり、防災、危機管理上からもその整備が急務となっています。



平成30年1月に稲核地籍で発生した交通事故では約14時間にわたり通行止めが発生し、安曇保育園の園児や保育士が園内で一夜を明かす事態が生じました

中部縦貫自動車道の整備状況



(2) 中部縦貫自動車道(松本波田道路)の進捗状況

○ 松本ジャンクション（仮称）の構造が決定

松本ジャンクション（仮称）は、長野道上空を2本のランプ*が通過する計画となっており、景観の観点から地元の鳥立地区より国に対し構造の見直し要望が出されていましたが、国が構造の見直しを検討し地区対策委員会に説明した結果、昨年12月に了承が得られました。

松本ジャンクション整備イメージ



※ランプとは
道路を立体交差とする場合において、交差接続する道路相互を連結する道路のことで、「インターチェンジ」や「ジャンクション」の構造の一部となります。

国土交通省HPより

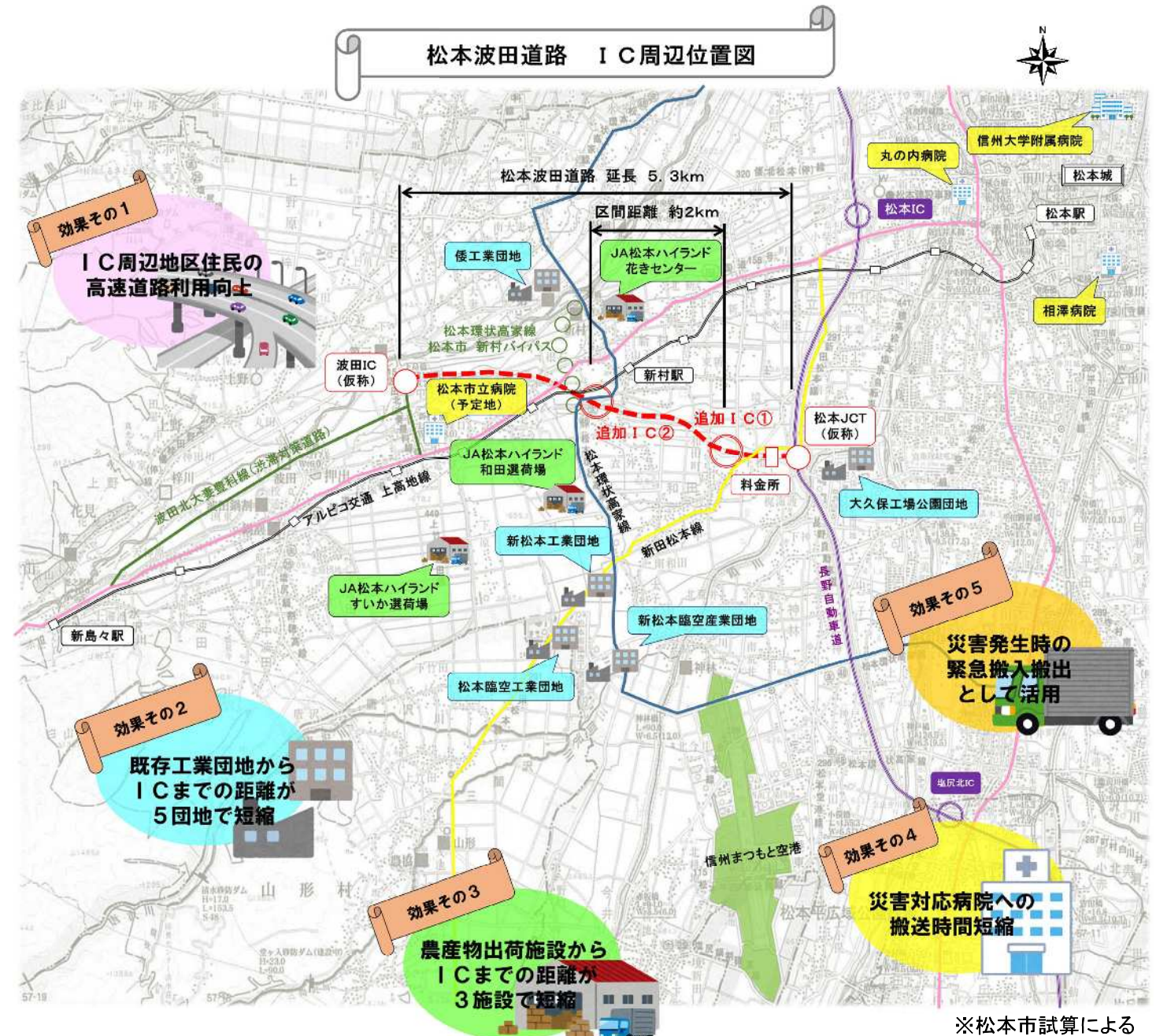
○ 追加インターチェンジを2箇所設置する方針を松本市が発表

松本市が中部縦貫自動車道（松本波田道路）への追加インターチェンジ設置に向け、国、県と協議を進めることを本年4月に発表しました。

和田地区と新村地区に新たに追加インターチェンジを設置し、県道新田松本線と県道松本環状高家線にそれぞれ接続する計画としています。追加インターチェンジについては、これまでも地元対策委員会や周辺の工業団地の管理組合から設置要望が出されていましたが、市が移動時間の短縮や物流の効率化などの必要性を検討し、今回の方針決定に至ったものです。

このインターチェンジは地域の活性化を目的に市が費用等を負担し設置するもので、今後、市で設計等を進めるとともに、実現に向け国や県と協議を行うこととなります。

➤ 追加インターチェンジの設置により、以下の効果（その1～その5*）が期待されます。



※松本市試算による